

様式第7号（第8条関係）

2023年 2月 28日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 日本共産党三鷹市議会議員団 代表者名 大城 美幸

1 観察年月日	2023年 2月 15日（水）～2023年 2月 16日（木） (1泊 2日)
2 観察者氏名	<u>大城 美幸</u> <u>栗原 けんじ</u> <u>前田 まい</u> <u>紫野 あすか</u> _____ 計 4 人
3 観察先及び 観察項目	(1) 長崎県 大村市 ア 新大村駅周辺の整備・まちづくりについて _____
	(2) 佐賀県 嬉野市 ア 高床式校舎建設について _____
4 観察結果等	別紙



別 紙 視察結果報告

① 長崎県 大村市 2023年2月15日(水)

● 新大村駅周辺整備・まちづくりについて

高木事務局長より歓迎のご挨拶と大村市についての概要をご説明いただきました。続いて都市整備部新幹線まちづくり課の中島課長より、ご挨拶をいただき、都市整備部都市計画課・都市計画グループリーダー進藤係長より、大村市のマスタープランと立地適正化計画についての説明を受け、資料を基に新大村駅周辺整備事業についての詳細をお聞きしました。

大村市の人口は、今のところ毎年500人増ではあるが、人口増がずっと続くわけではなく、何もしなければ5年後10年後は人口が減るという予測があり、現在の人口を維持・継続するために子育て世代を取り込むための施策の一つとして、持続可能でコンパクトなまちづくりを推進するための適正立地化計画を策定しました。県職員など公務員は転勤族になるが、大村市は長崎県内の移動において、高速道路のインターチェンジもあり、ちょうど長崎県内の地形上の中間地点に位置するため、県内のどこに転勤・異動になっても通勤に便利だと言う事や、長崎市などに比べて地価が安いと言う事での長崎県内からの転入者が多いとの事でした。

事前にお尋ねした質問項目に沿っての回答がなされ、質疑を行いました。

会派としての最大の関心事、整備にあたっての市民の声をどのように反映させたのかについて伺ったところ、新大村駅周辺の町会が、整備にあたって、新幹線が停まり、駅がにぎわえば車が多く交通量が増えると歩行者の危険も増すことから、駅の整備だけではなく駅周辺を含めたまちづくりとしてとらえ、町会の中に新大村駅前整備についてのプロジェクトチームを立ち上げたとの事でした。町会との窓口ができ、市にも様々な要望や意見が出され、市と町会住民も一緒に取り組んできたとの事でした。中でも、町会から歩行者の安全確保が優先されるべきと、歩道の整備をしてほしいとの声が強く、歩道整備を行ったとの事でした。これから民間の商業施設などが入って、整備が、さらにはすすめられようとしています。第二期工事の総事業費は約13億円、その内、市の負担は6億5千万円との事でした。当初400台の駐車場整備を市単独で行う計画でしたが、鉄道会社と交渉し、JR九州と覚書を交わし、市有地約3,500m²を30年間無償貸与し、建設・維持管理・運営などすべてJR九州が行うことで協議が整ったとの事でした。

今後令和5年から6年度の2か年計画で公園整備が行われます。

公園については、今後民間事業者と地元、行政と一体となり、賑わいを推進していくこととしており、エリアマネジメント活動を展開していく予定とのことでした。今後、構成員・組織、具体的な取り組みなどを考えていくそうです。さらに新大村駅周辺道路の整備の検討も必要との事でした。

② 佐賀県 嬉野市 2023年2月16日(木)

● 高床式校舎建設について

杉崎教育長、辻議長から歓迎のご挨拶をいただきました。

その後、教育委員会 教育総務課の武藤課長、建設課の職員奥山さんより、高床式校舎を建設するに至った経緯など、パワーポイントと資料をもとに説明を受けました。教育委員会とは担当が違うのに、わざわざ当時の建設にかかわった職員を同席させて

いただいたこと、また議長も教育委員会の職員だったとの事で視察の最後まで同席して下さり、いろいろと当時のお話などを丁寧にしていただきました。

高床式の校舎・塩田中学校は、塩田川と支流の浦田川にはさまれた浸水想定区域内に学校、公民館、市役所塩田庁舎などの公共施設があります。また周辺には伝統的建造物群保存地区にも指定されている地域です。

避難場所としての指定がされない浸水想定地域のため、当時築45年経過し老朽化した中学校の建て替えの話が出た際、1キロ離れた高台の避難場所となっている高校の近くに移転したほうが良いのではないかと議会でも、また学校施設等検討委員会(15人の委員)でも話し合われていたそうです。しかし、市が住民と保護者にアンケートを実施したところ、8割が現在の場所での建て替えを希望したため、検討委員会は、水害対策を施しての現地建て替えを答申しました。なお、旧校舎も1階部分は駐車場で2階からが鉄筋コンクリート校舎となっていたことです。

当時のハザードマップでは、塩田中学校は0.5m以上3m未満の浸水被害が想定されていました。有明海に面しており、満潮時の大雨には特に浸水被害が起こります。日頃から住民も浸水するのが当たり前、浸水しても水はいずれ引くということで、自宅の一階の簾箭などを2階に引き上げる滑車などが各家々に設置されているということでした。

改築した校舎は鉄骨づくり2階建てで、校舎改築に要した費用17億円のうち高床構造に要した費用は、2億8千万円でした。高床の高さは2.6mで、近隣の住宅に水が流れ込まないようにと、グラウンドを35cm、中庭部分50cm低くして貯水池にしているとの事でした。

大雨の予測が出されると早めに児童生徒を帰宅させるなどの対応をとっており、高床式にすることで配管などが上に見えるためメンテナンスがしやすくなっているとの事でした。

コスト的には、盛り土をして建て替えると安くできるのだが、そうすると近隣の住宅に水が流れ浸水することになってしまうので、それはできなかったとのことでした。

実際、旧校舎の時に、1990年の夏は1メートルの高さまで浸水し、新校舎になってからの2021年8月の豪雨では70cmの高さまで浸水したが、いずれも翌日には何事もなかった如くに水は引いていたとのことで、建物への被害はありませんでした。

学校は地域のコミュニティの拠点でもあり、学校がなくなるデメリットについて考えなければならないと痛感しました。浸水想定地域であっても、避難場所とならなくとも、現地建て替えを希望した住民の思いを探りたいです。

住民や保護者、当事者である児童・生徒の声を聞くことが何よりも大切だと再確認しました。

三鷹の羽沢小の天文台移転についても、移転ありきですすめられていないか、再度考える必要があると思った次第です。

※駅前再開発、天文台のまちづくり、いずれも市民の声、特に当事者の声をいかに聞くか、市民とともにまちづくりをすすめることの重要性を再認識した視察となりました。今後の議会での質問などにも今回の視察で学んだことをとりあげてまいります。